

八潮市立 八幡中だより

目指す学校像
生徒が輝き、夢や希望を育む学校
学校教育目標
・人を大切にする生徒
・自分の考えを持ち表現できる生徒
・挑戦し続ける生徒
重点目標
3つの基本「時を守り、場を清め、礼を正す」



ホームページ

<https://yashio-yawata-jh.edumap.jp>

令和6年12月10日（火）発行
第8号 在籍生徒316名

12月の思い出

校長 市川 真志

早いもので、今年も最後の月になりました。12月は、寒さと忙しさのイメージが強いのですが、皆さんはいかがでしょう？「師走」と言うだけあって、非常に忙しい月ですが、クリスマスや大晦日など、楽しいイベントも多いです。皆さんはどのような年末を過ごされるのでしょうか？

12月に、私の家族では毎年恒例のイベントがいくつかあります。その一つは、「クリスマス会」です。12月24日か25日に、家族で集まり、一緒に食事をする会ですが、私はできるだけ全員にプレゼントを渡すことにしています。この習慣は、子供たちが小さいときから続いています。

私には3人の子供がいます。一番上の長女は既に就職して、下の2人は大学生です。3人が小学生ぐらいまでは、サンタクロースを信じていたので、サンタからのプレゼントのふりをするのが大変でした。いつも、クリスマス会の途中で私だけこっそり抜け出し、玄関の外にプレゼントを置き、インターフォンを鳴らします。子供たちが玄関に来るまでに急いでトイレに隠れ、子供たちがプレゼントに気づくと後



ろから「どうした？」と言って、わざとらしく近づくのです。子供たちは、本当にサンタが来たと思ひ込み、一生懸命私に説明します。「急にピンポンがなって、来てみたらプレゼントがあったんだ。」私が置いたとも知らずに、一生懸命話す姿を見て、何となく罪悪感があったことを覚えています。ある年の12月中旬、その年は忙しかったので早めにプレゼントを買って、押し入れに隠しておきました。子供たちは、たまたま学校で「サンタはいない」と言うことが話題になっていたらしく、家の中の大捜索が始まっていました。そんなことも知らない私が家に帰ると、一番末っ子が「お帰りなさい、サンタさん」と言いました。押し入れにあるプレゼントを発見し、「サンタはお父さんだった」と理解したようでした。ニコニコしながら迎える子供に、つい笑い出してしまいましたそんなことがあっても、プレゼントの習慣だけではなくすことなく、子供たちが大人になっても続いています。プレゼントの中身は、「犬のぬいぐるみ」から「ブランドの財布」へ、「怪獣のおもちゃ」から「ワイヤレスイヤホン」へと変わってはいますが、あの頃の気持ちだけは忘れずにいようと思っています。

毎日一緒に過ごす家族には、意外に感謝の気持ちを伝える機会は少ないものです。こういうイベントを大事にしながら、日頃の感謝を伝えることも大切だと思います。「感謝してます」という言葉も大事ですが、感謝を形にすることで伝わることもあるものです。1年の締めくくりのこの時期に、日頃お世話になっている方への感謝を形にしてみたいはいかがでしょうか？皆さんにとって、良い年末となりますように。